

学校名	岡山県 備前市立日生中学校
授業者	教諭 近藤 賢

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「国際交流プログラム」

1-2. 学年

第3学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間，英語

1-4. 単元の概要

本校の海洋学習のプログラムの一つに「アマモ場の再生活動」を介して，海外からの留学生と共同学習を行うことで，日生町や日生中の取り組みを知ってもらおう。コミュニケーション手段としては英語を用い，身につけてきた英語の力を発揮する場とする。

事前に，立命館大学政策科学部の留学生から「アマモ場の再生活動」についての質問（英語表記）をもらい，それに対する回答を英語で作成する活動を行う。

交流当日は，①中学生による日生の紹介（英語で）と留学生による母国の紹介（日本語で）をそれぞれPowerPointで行う。②グループで事前に準備した回答についてディスカッションをする。③グループごとに給食を食べて交流する。④グループごとに乗船し，流れ藻の回収を行う。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校の海洋学習のプログラムの一つに「アマモ場の再生活動」がある。日生町（特に漁協）の歴史，環境，地域の未来を学ぶ上で，このプログラムは本校の教育活動の中で大きなウエイトを占めている。

本校の海洋学習についての学校評価を立命館大学政策科学部に依頼しているが，同学部の桜井先生のゼミに所属している留学生が，日生中学校の活動に強い興味を抱き，予めから，「アマモ場の再生活動」について知りたい，中学生と一緒に活動してみたいという要望が上がっていた。

一方，本校の外国語の指導では，常勤のALTを活用して，英会話の指導を行っているが，本校のALT以外の外国人と英会話をする機会は皆無に等しい状況下であり，英語科の教員は，生徒が学習の成果を発揮できる場はないかと，苦慮していた。

そこで，立命館大学の留学生と日生中学校の中学生が共同で活動をするを通して，留学生には日生のこと，アマモのことを知ってもらい，中学生は英語を用いてコミュニケーションをとることをねらいとした。

※ 余裕があれば，SDGsについての知識を習得させることもねらいたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- 留学生や留学生の母国に対して興味や関心をもち、積極的に関わろうとすることができる。
- イントネーションに気をつけながら英語で話することができる。
- 相手の発言に対して、英語で相づちを打ったり、受け答えたりすることができる。
- アマモ場の再生活動（流れ藻の回収）について、積極的に説明したり、共同で活動したりすることができる。

1-7. 単元の展開（全6時間）

時数	学習活動・主な内容	◎教師の指導 / ○主な評価 ◇外部連携 / ●使用教材等
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流プログラムの流れについて知る。 ・SDGsについて知る。(特にSDG14) ・事前に受けた「アマモ場の再生活動」についての質問に答えるための準備をする 1) 日本語での回答をつくる 2) タブレット端末をを活用して、回答を英訳する。 3) 自己紹介を含め、回答する練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎留学生からの事前質問は未習内容が含まれていたため、質問は英語科教員で英訳をする。 ●PowerPoint, ワークシート, タブレット端末 ○これまでに学んだアマモについての知識を生かしている ○英語での表現方法を理解している。 ◎教師が話し方のモデルを示し、会話の時のイントネーションを意識できるようにする。 ◇立命館大学政策科学部
3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・日生の紹介（中学生代表） ・留学生による母国の紹介 ・グループディスカッション 1) 自己紹介 2) 事前質問への回答 3) 自由なディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ●PowerPoint ◎グループごとに英語科の教員や、英会話サポートスタッフが入って支援する。 ○事前に準備した回答を英語で伝える。 ○積極的にディスカッションに参加している。 ◇元備前市地域おこし協力隊元 (英会話サポートのボランティア)
5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・アマモ場の再生活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に留学生に説明している。 ◇日生町漁業協同組合 天倉専務理事, 漁師の方々

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- イントネーションに気をつけながら英語で話すことができる。
- 留学生や留学生の母国に対して興味や関心をもち、積極的に関わろうとすることができる。
- 相手の発言に対して、英語で相づちを打ったり、受け答えたりすることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	○教師の指導・支援 / ●評価の視点（方法）
1 日生の紹介をする。	<ul style="list-style-type: none"> ●イントネーションに気をつけながら英語で話すことができる。 ○事前練習の中で、発音の仕方をレクチャーしておく。
2 留学生による母国の紹介を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ●留学生の母国紹介について、積極的に質問をしている。
3 グループディスカッションをする。 <ul style="list-style-type: none"> 1) 自己紹介 2) 事前質問への回答 3) 自由なディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ○各グループにサポート（教員かボランティア）を配置する。 ●相手の目を見ながら回答している。 ●相手の発言に対して、英語で相づちを打ったり、受け答えたりすることができる。 ○受け答えが難しい生徒には、 I see. / really? / Excuse me～. などを使うようアドバイスする。 ○上手にディスカッションができていたグループを紹介する。
4 まとめと次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・良い表現方法 ・良い受け答え ・表情やボディランゲージ 等 ○「給食」と午後に行う「流れ藻の回収」も同じグループで活動することを伝える。

3. 今回の活動の自己評価

A L T以外の外国人とふれあう機会の少ない本校の生徒にとって、この機会は非常に貴重であった。単に文法や読解といった英語ではなく「どのようにすれば相手に伝わるか」を考えながら生徒が準備をし、身振り手振りを交えながら伝えようとする姿がとても印象的であった。

英語科との横断的学習をすることで、本校の海洋学習や日生海の素晴らしさをどのように啓発していくかを考えさせられた。世界から注目されている日生の海について留学生に伝えるためには、生徒は今まで当然のように知っていた地元の海のことを改めて調べる必要があった。そうすることで生徒たちは海の重要性を再認識し深い学びができたと言える。

SDG sについては、簡単に触れる程度であったので、単元の時間設定にもう少し幅を持たせておけば良かったと思う。

4. 今後の課題

国際交流プログラムは、本年度は幸運に恵まれ実施することができた学習活動であり、次年度以降の継続した活動として設定できるわけではない。しかし、「日生の海が世界とつながっている」ということは、より大きな視点で海洋学習に取り組んでいく可能性を見いだすことができたと言える。

そこで、今後はSDG 14を中心に、SDG sについての学習を広げていき、中学生が「私たちにできること」を考え、多面的・多角的な視野で未来を考えていく態度を育てていくことが必須であると考えます。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

本校独自の学習プログラムですので、別段留意することはありません。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。